

# 日高高等学校 定時制課程

実施日時	令和3年7月19日(月)、9月2日(木)、11月17日(水)
参加者	生徒23名、教職員9名、地域住民等0名 計32名
実施内容	被災者救助(救急救命)訓練、火災避難訓練、南海トラフ地震啓発ビデオ、津波を想定した避難訓練と避難経路確認、ライフジャケット脱着訓練

## ねらい

- 1 災害についての知識を身につける
- 2 災害から自らの命を守るとともに、被災者を救助する行動力を養成する
- 3 災害から生き抜く力を身につける

## 主なプログラム

- 1 火災、津波に対して各状況を設定し、避難訓練・避難場所の確認を行う。また被災者の救助のための救急救命訓練を行う。
- 2 起震車による地震体験訓練(中止)。南海・東南海地震についてのビデオを見ながら、地震発生時の行動について学習する。
- 3 ライフジャケット着脱訓練

## 概要

- 1 緊急時に人命救助にあたるための心構え、南海・東南海地震への備えと、ライフジャケットの正しい着用方法の体験から被災時にとるべき行動を確認した。
- 2 在校時に災害が起こった時の避難場所までの経路を確認するとともに、在宅時の避難場所や家族との連絡方法を確認した。

## 参加者感想文

- 地震が来たときのために、家具の固定や食料の備えが大切だとわかった。
- 避難場所を再確認しようと思った。
- 災害時は助け合うことが大切だとわかった。
- どこで災害に遭うかわからないので、家族との連絡方法を確認しておくことが大事だと思った。

## 成果と課題

### 【成果】

- 例年、心肺蘇生法や起震車による震度6の地震体験をしているが、生徒は毎年少しずつ入れ替わるため、地震の恐ろしさやその後やって来る津波に対する認識を高めるためにも、継続的に行う必要性を実感した。
- 生徒は、災害発生時に自分の身を守ること、被災者を助けること、ボランティアとして人々をサポートすること等について、自分たちのとるべき行動や、担うべき役割を確認できたようである。また家族との連絡方法や落ち合う場所を決めておくことの大切さも認識したようである。
- 生徒は、巨大地震に伴う津波発生時に、ライフジャケットを着用することの大切さを理解し、実際に着用して試みることで緊急時の安全対策を実感できたようである。
- 今年度もコロナ禍で、防災訓練の一部が計画通りに実施出来なかったが、生徒への意識付けが一定なされたことは評価できる。

### 【課題】

- 今年度も、コロナ禍の影響で、起震車による地震体験とアルファ米等の炊き出し訓練は実施出来なかった。
- 生徒は、訓練でも真面目に取り組んでくれているが、真剣みに欠ける部分があることも否めず、いかに自分のこととしてとらえ、高い意識で訓練に臨ませるかが今後の課題である。

